

広島県のシダ植物*

吉野由紀夫¹⁾

Some notes of the Pteridophyta in Hiroshima Prefecture, Japan*

Yukio Yoshino¹⁾

Summary

1. A historical review of research on pteridophytes in Hiroshima Prefecture is described.
2. Some pteridophytes species, whose type locality is in Hiroshima Pref., are described.
3. Current status of the pteridophytes in Hiroshima Pref., especially designated and an endangered species, is described.
4. Achievements of Mr. Masafumi Matsumura are listed.

はじめに

松村雅文氏は上蒲刈島（現：呉市蒲刈町）の出身で、中国新聞社に長らく勤務されていた。勤務中からシダ植物に興味を持たれ、三原市の（故）竹田孝雄氏らとともに県内のシダ植物について調査され、多くの成果を公表された。今回、松村雅文氏がこれまで調査してこられた広島県のシダ植物に関する知見を広島市植物公園紀要に公表することに合わせ、広島県におけるシダ植物に関するいくつかの事項について寄稿することになった。そこで、広島県におけるシダ植物の研究略史と、広島県を基準産地とする種などの項目について記述し、末尾に松村氏の業績目録を挙げる。

広島県のシダ植物の研究史

明治以前の広島県のシダ植物については、天明元年（1781）に小田好道が広島藩に差し出した「山県草木志」（広島市立中央図書館（編）1992）にヒカゲノカズラなど16種類が記述されている。

明治以降は牧野（1911）が佐伯区湯来町の恵下谷からクラガリシダを報告したのが最初である。戦前は広島高等師範学校や広島文理科大学の教官であった乾環（1873～1946）や高木哲雄（1905～1945）らが中心になって調査が行われた。特に乾は1918年に出版された「巖島植物目録」（乾 1918）で巖島（宮島）に生育するシダ植物7科51種を報告している。また、田川（1936）が早い時期に広島からオオカグマを報告していることも注目される。

広島県のシダ植物について高木は、1927年に「広島県下植物目録、羊歯の部」を作成している（高木1927）。広島県のシダ植物に関するまとまった報告としては、これが最初と思われる。また、高木（1933）は、広島県の植物分布を考察し、シダ植物についても記述している。

戦後は（故）越智謔武や（故）土井美夫、（故）河毛周夫らが県内各地を調査した。戦後の早い時期に越智（1948）や堀川・佐々木（1959）がシダ植物目録や地域の植物相を報告しているが標本は残されていないようである。また、土井（1967, 1983）や河毛（1974）は広島県のシダ植物相や維管束植物目録を

* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.102

1) 東和環境科学株式会社

Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden, No.33: 1-6, 2016.

報告している。なお、越智の収集した標本は広島県立国泰寺高校の生物室に保管されていたが、雨漏りによって使えなくなり破棄されたとのことである(渡辺増富氏 私信)。

1970年頃から(故)竹田孝雄、筒井貞雄、三上幸三、関太郎、(故)藤井茂美、(故)太刀掛優、(故)渡辺泰邦、中西弘樹、松村雅文、田丸豊生、桑田健吾、宝理信也、久藤広志、松井健一、浜田展也、斉藤隆登、(故)近藤芳子、吉野由紀夫などの研究者によって県内各地でシダ植物相や植物相が調べられ、多くの研究成果が公表されるようになった。市町村名あるいは地名で年代順に挙げると、三段峡と八幡高原(広島県教育委員会(編)1959)、中国山地(鳥取県・島根県・広島県(編)1959)、西中国山地(島根県・広島県(編)1966)、滄浪園(八千代町)(広島県名勝滄浪園緊急調査団(編)1971)、巖島(宮島町)(関ほか1975)、比和町(比和町立科学博物館(編)1977)、弥栄峡(名勝弥栄峡総合学術調査団(編)1979)、滝山峡(滝山峡総合学術調査委員会(編)1983)、帝釈峡(「帝釈峡の自然」刊行会(編)1988)、牛田山(広島市)(キャンパスの自然刊行委員会(編)1988)、府中町(府中町生物実態調査団(編)1988)、下蒲刈町(下蒲刈町文化財保護委員会(編)1988)、立岩ダム(中国電力(編)1989)、下帝釈峡(広島県林務部(編)1993)、廿日市市(廿日市市教育委員会(編)1994)、熊野町(安芸熊野の自然誌編集委員会(編)1996)、灰塚ダム(「灰塚ダム湖とその周辺の自然」編集委員会(編)1996)、神之瀬峡(比婆科学教育振興会(編)1997)、戸河内町(戸河内町(編)1997)、蒲刈町(蒲刈町誌編集委員会・蒲刈町教育委員会(編)1998)、高野町(比婆科学教育振興会(編)1998)、天狗シダ群生地(大朝町)(大朝町教育委員会(編)1998)、呉市(太刀掛1999, 2010)、世羅台地(世羅台地の自然編集委員会(編)2001)、甲山町(甲山町史編さん委員会(編)2003)、東城町(広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004)、北広島町(北広島町生物多様性専門員会議(編)2014)などがある。関ほか(1975)による「巖島(宮島)の維管束植物」はその代表的なものである。

シダ植物の調査では分布が主なテーマとなることが多いが、藤井(1988)は石灰岩地に生育するシダ植物を生態学的な立場から研究を行っている。

1952年に発足した日本シダの会では、1974年に全国のシダ植物の分布を調査して、標本に基づく分

布図を作成することが企画された。1979年から1997年にかけて倉田・中池(1979～1997)により全8冊が出版された。これは1/5万の地形図を4等分して分布図を作製するもので、広島県では竹田孝雄、田丸豊生、松村雅文など多くの研究者が協力した。また、竹田は広島県内のシダ植物の分布を調べ、1987年に「広島県のシダ植物」を出版した(竹田1987)。この本でも1/5万の地形図を4等分し、1種ごとに、各メッシュに分布を示している。また1997年に出版された「広島県植物誌」(広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編))では、シダ植物は浜田展也・松村雅文・田丸豊生の3名が担当した。

松村は竹田(1920～1988)の調査以降、竹田のシダ植物のメッシュ分布図をより精度の高いものとするために、県内各地を調査した結果を多数報告している(巻末の業績目録参照)。

広島県を基準産地として記載された種

広島県を基準産地とするシダ植物としては、Kodama(1914)がミヤジマシダ(基準産地:宮島)とヒメハシゴシダ(基準産地:宮島)を、Koizumi(1924)がヒメイタチシダ(基準産地:宮島)を、Tagawa(1937)がオニイノデ(基準産地:福山市)を、Tagawa(1952)がケキンモウワラビ(基準産地:帝釈峡)を記載している。倉田(1966)はアキイヌワラビ(雑種、基準産地:三段峡)を報告している。なお、ミヤジマシダは1913年にフランス人宣教師のフォーリエ(Faurie)が宮島で採集した標本を基に記載された種であるが、その後宮島では生育が確認されていない。なお、ヒメイタチシダの標本はフォーリエがミヤジマシダを採集した同じ日に採集されている。

広島県のシダ植物相

広島県内に自生するシダ植物はこれまでに26科307種類が確認されている。これらの県内での分布については田丸(1982)や竹田(1987)が詳細に記述しているほか、最新の知見が本誌別稿に掲載されている(松村・井上2016)ので、そちらを参照してほしい。

近年の傾向としては、県内では宮島など花崗岩からなる沿岸部のマツ枯れが進行した地域ではコシダ

やウラジロが著しく繁茂している。またマツバランやオオカグマなど南方系のシダ植物の生育地が増えている。近年県内で増加したニホンシカの生息地域ではイワヒメワラビやナチシダが量的に増えているが、イヌワラビやベニシダ、イノデの仲間などは著しく食害され、シダ植物相が貧弱化している。宮島のアオガネシダや西能美島のコウラボシなどが見られなくなったが、これは採取によるものであろう。

国外あるいは国内からの外来種としては、ホウライシダ、イヌケホシダ、トキワシノブやアスヒカズラなどがあげられる。栽培逸出種としてはタマシダ、トクサ、コンテリクラマゴケ、クサソテツ（太田川下流域）などがあげられる。マツバランも古くから栽培されてきた種なので逸出もあると考えられる。また、アイガモ農法ではアイガモの餌として外国産のアカウキクサ類が導入され、各地で増加している（吉野ほか 2007, 植村ほか 2010）。自然農法の名のもとに安易に外国産の植物を導入した結果といえる。

広島シダ植物と絶滅危惧種

1980年頃から、行政機関が各種生物調査を行うようになってきた。広島市や広島県では、貴重な種や絶滅のおそれのある野生生物等の調査を行っている。「広島市の動植物」（広島市教育委員会（編）1988）では「絶滅のおそれのある種」という概念がまだなかったため、稀少という観点から調査が行われた。シダ植物は田丸が担当している。「広島市の生物」（広島市環境局環境企画課（編）2000, 2006）ではシダ植物は田丸と松村が担当し、絶滅のおそれのある種として17科36種が選定されている。また、広島県の絶滅のおそれのある野生生物の調査（1991～）では、これまで3回報告書（広島県（編）1995, 広島県版レッドデータブック見直し検討会（編）2004, レッドデータブックひろしま改訂検討委員会（編）2012）が作成されている。シダ植物は第1回が松村雅文、第2回が浜田展也、第3回は吉野由紀夫が主に担当している。その結果、広島県における絶滅のおそれのあるシダ植物は21科52種が選定されている。

環境庁（省）の絶滅のおそれのある野生動植物の調査では、シダ植物に関しては竹田や松村の調査資料を基礎資料とし、関と吉野がその後のデータも加え、整理して提出している。調査結果は2000年に

出版され（環境庁自然保護局野生生物課（編）2000）、2015年に新しい版が出版された（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編）2015）。

摘要

1. 広島県のシダ植物の研究史について記述した。
2. 広島県が基準産地（タイプロカリティー）であるシダ植物について概説した。
3. 広島県におけるシダ植物の現状とRDB種について記述した。
4. 松村雅文氏の業績目録を作成した。

引用文献

- 安芸熊野の自然誌編集委員会（編）1996. 安芸熊野の自然誌. 362 pp. 熊野町, 広島県.
- 中国電力（編）1989. 立岩貯水池周辺地域の自然. 293 pp. 中国電力, 広島市.
- 土井美夫 1967. 最近府県別日本シダ植物略目録 (22), 広島県 (1967.1.24). 日本シダの会会報 88: 4-5.
- 土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島市.
- 府中町生物実態調査団（編）1988. 府中町の動植物. 130 pp. 府中町教育委員会, 広島県.
- 藤井茂美 1988. 帝釈峡のイチヨウシダ生育地の植石灰植物の分布. 「帝釈峡の自然」刊行会（編）「帝釈峡の自然」pp. 127-135. 「帝釈峡の自然」刊行会, 東城町.
- 「灰塚ダム湖とその周辺の自然」編集委員会（編）1996. 灰塚ダム湖とその周辺の自然. 693 pp. 灰塚ダム地質動植物学術調査団, 広島県.
- 廿日市市教育委員会（編）1994. 廿日市市の生物. 289 pp. 廿日市市教育委員会, 広島県.
- 比婆科学教育振興会（編）1997. 神之瀬峡の自然. 148 pp. 広島県.
- 比婆科学教育振興会（編）1998. 広島県高野町の自然誌. 676 pp. 高野町教育委員会, 広島県.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会（編）1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島県.
- 広島県（編）1995. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま—. 437 pp. (財) 広島県環境保健協会, 広島県.

- 広島県版レッドデータブック見直し検討会(編)
2004. 改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—. 516 pp. 広島県.
- 広島県教育委員会(編)1959. 三段峡と八幡高原. 632 pp. 広島県教育委員会, 広島県.
- 広島県名勝滄浪園緊急調査団(編)1971. 滄浪園—総合学術調査研究報告—. 173 pp. + 3 pls. 広島県名勝滄浪園緊急調査団, 広島県.
- 広島県林務部(編)1993. 比婆道後帝釈国定公園下帝釈峡地域学術調査報告書. 78 pp + 22 pp. + 66pp. + 付図付表. 広島県林務部, 広島県.
- 広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 広島県.
- 広島市環境局環境企画課(編)2000. 広島市の生物—まもりたい生命の営み—. 307 pp. 広島市環境局環境企画課, 広島市.
- 広島市環境局環境保全課(編)2006. 広島市の生物—増補版—. 131 pp. 広島市環境局環境保全課, 広島市.
- 広島市教育委員会(編)1988. 広島市の文化財第39集 広島市の動植物—広島市稀少生物調査報告—. 264 pp. 広島市教育委員会, 広島市.
- 広島市立中央図書館(編)1992. 山県草木志. 299 pp. 広島市立中央図書館, 広島市.
- 比和町立科学博物館(編)1977. 比和の自然. 562 pp. 比和町郷土史研究会, 広島県.
- 堀川芳雄・佐々木好之1959. 備北地方の植物群落とフロラ. 鳥取県・島根県・広島県(編)「中国山地国定公園候補地学術調査報告」pp. 43-69, pls. 15-19. 鳥取県・島根県・広島県.
- 堀川芳雄・鈴木兵二・安藤久次・中西哲1959. 三段峡・八幡高原及びその周辺地域所産高等植物目録. 広島県教育委員会(編)「三段峡と八幡高原総合学術調査報告」pp. 195-224, pls. 1-3. 広島県教育委員会.
- 堀川芳雄・鈴木兵二・安藤久次・佐々木好之1966. 西中国山地の植物—植物相の特質と植物群落—. 島根県・広島県(編)「西中国山地国定公園候補地学術調査報告」pp. 49-87, pls. 11-19. 島根県・広島県.
- 乾環1918. 巖島植物目録. 10 pp. 広島県山林会, 広島県.
- 蒲刈町誌編集委員会・蒲刈町教育委員会(編)1998. 蒲刈町誌 自然編. 352 pp. + 350 pp. 蒲刈町, 広島県.
- 環境庁自然保護局野生生物課(編)2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8植物I(維管束植物). 660pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—8植物I. 646pp. (株)ぎょうせい, 東京.
- 北広島町生物多様性専門員会議(編)2014. 北広島町の自然—北広島町自然学術調査報告書—. 700pp. 北広島町教育委員会, 広島県.
- Kodama, S. 1914. *Dryopteris gracisescens* (Bl.) O. Ktze. ssp. *glanduligera* (Kunze) C. Chr. var. *abbreviata* Kodama and *Polystichum miyajimense* Kodama. In: Matsumura, J. (ed.), *Icones Plantarum Koishikavenses* 2: pls. 106 & 110. Maruzen, Tokyo.
- Koidzumi, G. 1924. *Contributiones ad Cognitionem Florae Asiae Orientalis*. Bot. Mag. Tokyo 38: 87-113.
- 河毛周夫1974. 南備後植物誌. 107 + 40 pp. 内外印刷, 広島県.
- 甲山町史編さん委員会(編)2003. 甲山町史自然編. 304 pp. 甲山町, 広島県.
- 倉田悟1966. シダ類ノート(四十). 北陸の植物 15(1-3): 2-8.
- 倉田悟・中池敏之1979. 日本のシダ植物図鑑 1. 628 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之1981. 日本のシダ植物図鑑 2. 648 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之1983. 日本のシダ植物図鑑 3. 728 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之1985. 日本のシダ植物図鑑 4. 850 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之1987. 日本のシダ植物図鑑 5. 816 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之1990. 日本のシダ植物図鑑 6. 881 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之1994. 日本のシダ植物図鑑 7. 409 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之1997. 日本のシダ植物図鑑 8. 473 pp. 東京大学出版会, 東京.
- キャンパスの自然刊行委員会(編)1988. 牛田山の自然. 254pp. 広島女学院, 広島市.
- 牧野富太郎1911. まひずるてんなんしょう並びに

- くらがりしだノ新産地. 植物学雑誌 25: 430.
- 松村雅文・井上尚子 2016. 広島県のシダ植物. 広島市植物公園紀要 33: 7-135.
- 名勝弥栄峡総合学術調査団 (編) 1979. 弥栄峡の自然. 791 pp. 名勝弥栄峡総合学術調査委員会, 広島・山口県.
- 越智諡武 1948. 広島県羊歯植物目録. 6 pp. (贈) 広島鯉城高校, 広島県.
- 大朝町教育委員会 (編) 1998. 広島県天然記念物大朝町の天狗シデ現状調査報告書. 83 pp. + 14 pp. 大朝町教育委員会, 広島県.
- レッドデータブックひろしま改訂検討委員会 (編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) —レッドデータブックひろしま 2011—. 633 pp. 広島県.
- 関太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 巖島 (宮島) の維管束植物. 天然記念物彌山原始林・特別名勝巖島緊急調査委員会 (編) 「巖島の自然—総合学術研究報告—」 pp.221-332. 宮島町, 広島県.
- 世羅台地の自然編集委員会 (編) 2001. 世羅台地の自然—地学編・自然観察編—. 188pp. 世羅台地の自然発刊連絡会, 広島県.
- 下蒲刈町文化財保護委員会 (編) 1988. 下蒲刈町の植物. 66 pp. 下蒲刈町, 広島県.
- 太刀掛優 1999. 広島県呉市植物誌. 334 pp. 比婆科学教育振興会, 広島県.
- 太刀掛優 (編) 2010. 広島県呉市維管束植物目録. 238 pp. 比婆科学教育振興会, 広島県.
- 田川基二 1936. 日本のコモチシダ属. 植物分類, 地理 5 (3) : 167-178.
- Tagawa, M. 1937. *Spicilegium Pteridographiae Asiae Orientalis* 13. *Acta Phytotax. Geobot.* 6(2): 89-100.
- Tagawa, M. 1952. Fern miscellany (7). *Journ. Jap. Bot.* 27 (10) : 319-324.
- 「帝釈峡の自然」刊行会 (編) 1988. 帝釈峡の自然. 561 pp. 「帝釈峡の自然」刊行会, 広島県.
- 高木哲雄 1927. 広島県下植物目録, 羊歯の部. 11 pp. (贈), 自刊.
- 高木哲雄 1933. 広島県に於ける高等植物の分布に就て (予報). 崇徳 10: 1-11.
- 滝山峡総合学術調査委員会 (編) 1983. 滝山峡—自然と生活—. 859 pp. 滝山峡総合学術調査委員会, 広島.
- 竹田孝雄 1987. 広島県のシダ植物. 560 pp. 博新館, 広島市.
- 田丸豊生 1982. 広島県のシダ植物. 日本生物教育会広島大会「広島生物」編集委員会 (編) 「広島生物」 pp.27-38. 第一法規, 東京.
- 戸河内町 (編) 1997. 戸河内町史 自然編. 346 pp. 戸河内町, 広島県.
- 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹 (編・著) 2010. 日本帰化植物写真図鑑第2巻. 579 pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎 2007. 広島県における外来植物の現状とその問題点. 比婆科学 224:1-18. +1 pl.

松村雅文氏の業績目録

松村氏の著作について, 年代順に整理した.

- 関太郎・中西弘樹・吉野由紀夫・宝理信也・田丸豊生・松村雅文・鈴木兵二 1983. 滝山峡の維管束植物. 滝山峡総合学術調査委員会 (編) 「滝山峡総合学術調査研究報告」 pp.237-294. 滝山峡総合学術調査委員会, 広島.
- 松村雅文 1989. 広島県三良坂のシダ. 日本シダの会会報 2 (77) : 21.
- 浜田展也・松村雅文・桑田健吾 1990. 三良坂町灰塚地区のシダ植物. 比婆科学 146: 9-29, pl. 1.
- 松村雅文 1991. 倉橋島にコタニワタリ. 日本シダの会中国支部会報 17: 4.
- 松村雅文 1992. 竹原市仁賀町上仁賀のシダ植物. 日本シダの会中国支部会報 19: 1.
- 松村雅文 1992. 三原市沼田西町にツクシイワゴ. 日本シダの会中国支部会報 20: 3-4.
- 松村雅文 1993. 広島県にもクルマシダがあった. 日本シダの会中国支部会報 21: 1.
- 松村雅文 1993. 三原市でナガサキシダ. 日本シダの会中国支部会報 22: 1-2.
- 関太郎・松村雅文・向井誠二 1993. 洞雲寺の植物. 「廿日市の文化第20集」 pp.73-114. 廿日市郷土文化研究会, 広島県.
- 松村雅文 1994. 湯来町西部のシダ植物. 日本シダの会中国支部会報 23: 1.
- 松村雅文 1994. 広島県のシダ植物分布. 132 pp.+ 3 pp. 自刊.
- 松村雅文 1994. 瀬戸田町でイワデンダが発見され

- た。日本シダの会中国支部会報 24: 1.
- 松村雅文 1994. 広島市東区戸坂出町にイワヘゴモドキ. 日本シダの会中国支部会報 24: 1-2.
- 松村雅文 1994. 廿日市市のシダ植物. 廿日市市教育委員 (編) 「廿日市市の生物」 pp.71-82. 廿日市市教育委員会, 広島県.
- 広島県 (編) 1995. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま—. 437 pp. (財) 広島県環境保健協会, 広島県. (シダ植物は松村が担当)
- 松村雅文 1996. 広島県蒲刈町のシダ植物. 比婆科学 171: 19-42.
- 松村雅文 1996. 蒲刈町で見たシダ植物. 24pp. 自刊.
- 浜田展也・松村雅文・桑田健吾 1996. 広島県灰塚ダム周辺地域のシダ植物. 「灰塚ダム湖とその周辺の自然」編集委員会 (編) 「灰塚ダム湖とその周辺の自然」 pp.559-592, pls.4. 灰塚ダム地質動植物学術調査団, 広島県.
- 松村雅文 1997. 広島県にもイッポンワラビ. 日本シダの会会報 3 (11・12) : 4-5.
- 松村雅文 1997. 神之瀬峡周辺のシダ植物. 比婆科学教育振興会 (編) 「神之瀬峡の自然—総合学術調査報告—」 pp.69-78. 広島県.
- 関太郎・田丸豊生・松村雅文 1997. 河毛周夫氏寄贈植物標本 I. シダ植物標本目録. 広島大学研究・教育総合資料館研究報告 2: 1-28.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会 (編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島県. (シダ植物は浜田, 田丸, 松村が担当)
- 浜田展也・松村雅文 1998. 高野町のシダ植物. 比婆科学教育振興会 (編) 「広島県高野町の自然誌」 pp.135-158. 高野町, 広島県.
- 松村雅文 1999. 広島県産シダ植物の新産地情報. 比婆科学 192: 73-75.
- 広島市環境局環境企画課 (編) 2000. 広島市の生物—まもりたい生命の営み—. 307 pp. 広島市環境局環境企画課, 広島市. (シダ植物は田丸と松村が担当)
- 松村雅文 2001. 広島市でナチシダを採集. 比婆科学 201: 42.
- 松村雅文 2001. 広島市でナチシダを採集. 日本シダの会会報 3 (27・28) : 649-650.
- 関太郎・松村雅文 2001. 太田川流域のシダ植物. 太田川水系生物相学術調査委員会 (編) 「太田川水系生物相学術調査報告書」 pp.87-123. 太田川水系生物相学術調査委員会, 広島.
- 松村雅文 2004. 広島県のシダ標本あれこれ. 宮島自然植物実験所ニュースレター 4: 3.
- 松村雅文 2005. ヒメミゾシダ再発見. 宮島自然植物実験所ニュースレター 6: 7-8.
- 坪田博美・向井誠二・松村雅文 2006. 表紙の植物—クモラン—. 宮島自然植物実験所ニュースレター 9: 1, 8.
- 松村雅文 2007. 巖島のシダ植物分布. 15 pp. 自刊.
- 松村雅文 2008. 巖島のシダ植物分布. 38 + 3pp. 自刊.
- 松村雅文 2010. イヌドクサ新産地情報. 比婆科学 235: 32.
- 松村雅文 2010. エビガラシダの新産地. 比婆科学 235: 32.
- 松村雅文 2010. 広島県のシダ植物分布. 145 + 5 pp. 自刊.
- 松村雅文 2011. 広島県のシダ植物分布 2010 地区別. 84 pp. 自刊.
- 松村雅文 2012. 広島県にアスヒカズラ. 日本シダの会会報 4 (12) : 348.
- 松村雅文・佐久間智子・斎藤隆登・上村恭子・山下容富子 2014. 北広島町のシダ植物. 北広島町生物多様性専門員会議 (編) 「北広島町の自然—北広島町自然学術調査報告書—」 pp.105-144. 北広島町教育委員会, 広島県.